

## (12) 沖縄



沖縄地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 観光は感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、一段と弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

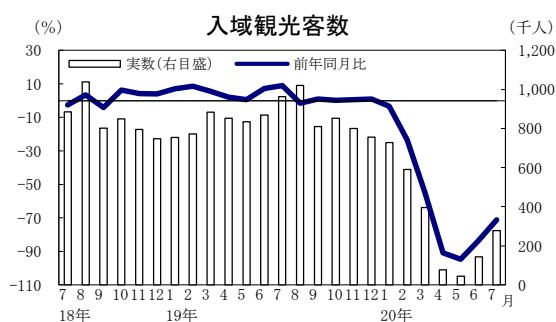
### 前回からの主要変更点

	前回（令和2年5月）	今回（令和2年9月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる	↑
観光	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、一段と弱さが増している	感染症の影響により、一段と弱い動きとなっている	→

### 1. 観光の動向

観光は感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる。

4、5月の入域観光客数は、国内客は緊急事態宣言や移動自粛要請等により減少し、外国客は入国制限措置の継続等により皆減となったことから、前年を大きく下回った。6、7月は、緊急事態宣言解除等により国内客の減少幅は縮小した。ホテル稼働率も、6月には同様に減少幅が縮小した。



入域観光客数等の動向

	2019年 10-12月	2020年 1-3月	2020年 4-6月	2020年 7月
入域観光客数 (千人)	2,406	1,715	265	277.3
(前年比、%)	0.6	▲28.8	▲89.6	▲71.2
ホテル稼働率 (%)	73.0	58.7	8.4	—
(前年差、%pt)	▲4.5	▲19.9	▲71.1	—

- (備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。  
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。  
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

## 2. 個人消費の動向

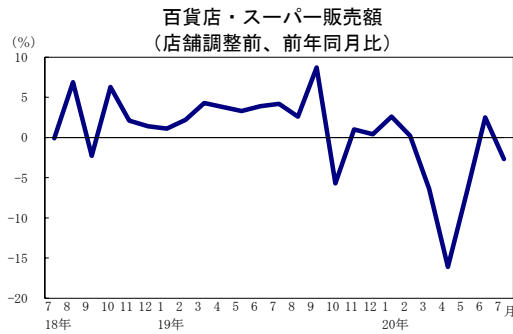
個人消費はこのところ持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4月は前月比8.3%減、5月は同3.1%増、6月は同4.1%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、飲食料品等は増加したものの、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、飲食料品や衣料品等が増加し、前年を上回った。7月は前年同月比2.7%減となった。



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI（消費*1）	▲4.8	▲8.3	3.1	4.1	—
百貨店・スーパー*2	▲6.8	▲16.1	▲6.9	2.5	▲2.7
コンビニ*2	▲6.5	▲10.0	▲9.2	▲0.4	—
乗用車*3	▲43.7	▲42.4	▲55.5	▲35.2	▲17.4
(季節調整値)*3	▲31.7	▲8.0	▲38.4	14.2	37.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

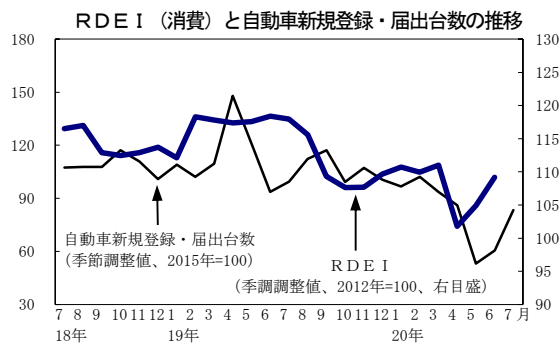
2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)。

2020年7月は速報値。

コンビニは日本銀行那覇支店調べ。

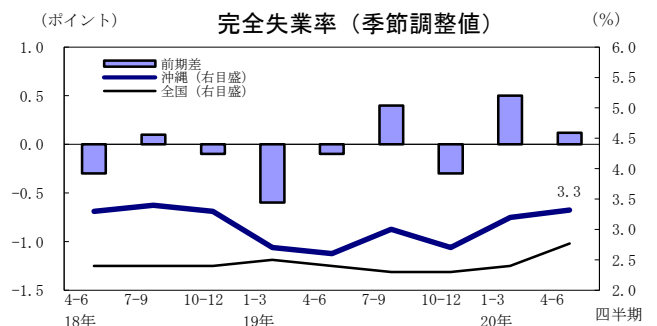
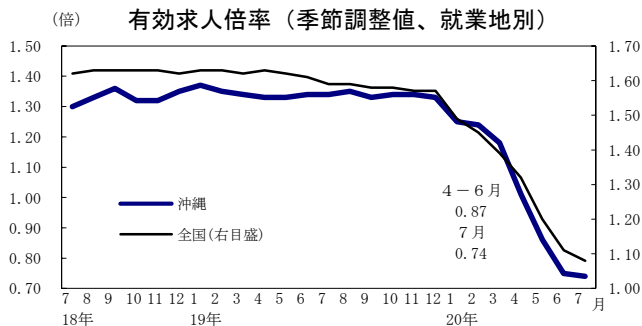
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、一段と弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

12. 沖縄

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で財布のひもが固くなり、出費に慎重になっている(通信会社)</li> <li>・自粛解除になって、最初は一気に来客数が前年比で70%くらいまで戻ったが、新型コロナウイルスの患者の増加に伴って地元客が減っている。逆に観光客が少しずつ戻ってきているが、月の後半には、前年の40%まで落ち込んでいる(その他飲食[居酒屋])</li> <li>・新型コロナウイルス感染者が増加している報道により、客の外出自粛が始まっている(家電量販店)</li> </ul>
		企業 動向 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスというコントロール不可能な事象に対しては、一企業として対抗するにも限界がある(会計事務所)</li> <li>・公共向け、民間向け出荷は共に前年比減である。新型コロナウイルス感染症の影響で特に民間の減少は大きい(窯業・土石製品製造業)</li> <li>・自粛解除に伴う人の動きが観光関連や業務筋に好影響を及ぼし始めて、3か月前より間違いなく良くなってきているが、その戻りは鈍く依然厳しい状況に変わりはない(食品製造業)</li> <li>・3か月前と比較すると外食関連の取扱量が増えている。また、観光客も多少増えてきているため、それに伴い3か月前と比較すると全体的に景気が良くなっている(輸送業)</li> </ul>
	雇用 関連	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの様子をみて、企業が採用活動を再開している(学校[大学])</li> <li>・求人数及び求職者数が減少している。また問合せの電話が減少している(人材派遣会社)</li> </ul>
	その他の特徴 コメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>：Go Toキャンペーンの効果もあって、国内観光客がふだんより多く来店している(衣料品専門店)</li> <li>：新型コロナウイルスの影響が大きい。クーポンを使った地域宿泊キャンペーンなど取組はあるが僅かである。本来の来客数に戻るには時間が掛かる(観光型ホテル)</li> </ul>
	先行き	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築相談の件数が減ってきており、今後その影響が建築受注件数の減少につながらないか懸念される(住宅販売会社)</li> <li>・Go To Travelキャンペーンは始まったが、新型コロナウイルス感染者も増えてきていて、また振出しに戻らないか怖い(旅行代理店)</li> </ul>
		企業 動向 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築相談の来客数は増えたが、土地なしの客なので契約までには時間が掛かる(建設業)</li> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大が再発するなか、県内企業も再び販促活動を縮小、見直しの動きが加速している(広告代理店)</li> </ul>
	雇用 関連	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの患者数が減少し、求人数も4月と比較して増加しそうであったが、7月の4連休で爆発的に新型コロナウイルス患者が増加し、観光関連業種で求人数が減少するものとする。また、観光関連業種を中心に、事業主から解雇の相談が増えてきている(職業安定所)</li> </ul>
その他の特徴 コメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>：イベントや祭りがないので来客数が見込めず、売上が期待できない(コンビニ)</li> <li>：Go To Travelキャンペーンで持ち直しを期待したものの、新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり、先行受注の伸び悩みが顕著に表れている(その他サービス[レンタカー])</li> </ul>	

(DI) 現状・先行き判断DI(沖縄)の推移(季節調整値)

